

中村俊定文庫
文庫 18
52



像定藏



口真似草第五

春部付句



わらわでふわといふも葉子
 鳥よふらふと若草あはれ
 若草あはれ若草の傍のさし
 とつひ〜数句よそ長久丸
 あかしの心そ外云毎の云換
 心あふれ心とそし離れ

自徳 梅盛

付句

付心あはれとつひ〜と
 或は若草の云離れ付合
 とつひと事とこ文心人胸
 中ひ若草の云若草胸
 中せら〜一神ハた〜
 心あはれとつひ〜一真作
 を〜と〜と句と〜と
 と〜と〜離れ付と〜と
 心〜付心と句と〜と

河合宗三の著作集
第一巻 小説集
一 鬼角の巻
二 作者の巻
三 作者の巻
四 作者の巻
五 作者の巻
六 作者の巻
七 作者の巻
八 作者の巻
九 作者の巻
十 作者の巻

河合宗三

河合宗三の著作集
第一巻 小説集
一 鬼角の巻
二 作者の巻
三 作者の巻
四 作者の巻
五 作者の巻
六 作者の巻
七 作者の巻
八 作者の巻
九 作者の巻
十 作者の巻

不_レ詣_二叶_一神慮
不_レ徃_二遊_一花月
不_レ行_二見_一名所
不_レ老_二忍_一古今
不_レ捨_二遁_一浮世
不_レ蓄_二翫_一金玉
不_レ龍_二渡_一山海
不_レ禁_二除_一災難

不_レ行_二至_一佛意
不_レ貴_二交_一高位
不_レ親_二爲_一知因
不_レ移_二宜_一四時
不_レ戀_二念_一愛別
不_レ劍_二追_一鬼神
不_レ拂_二失_一妄念
不_レ學_二顯_一秘密

不_レ祈_二延_一壽命
不_レ作_二吟_一詩歌
不_レ旅_二至_一遠近
不_レ願_二生_一安樂

不_レ習_二理_一諸事
不_レ神_二分_一乾坤
不_レ植_二見_一草木

陽春のさく梅乃を咲く

南のそく心急乃ゆへに

貞徳

初るるせや終る石乃岩井月

高梨氏

めどく大木中ふ松乃初花

野也

下つら友のさつらと陰酒裏

内田氏

平吉

おまらやま乃陽気さうきさ

る高月とかがめがる高くとよ

梅盛

今物さひまいんしおあひく

伊藤氏

信徳

久ぬのちやくとさつらとあひ

村回春四

ちとちおとまぬあぢ乃玉

寶性院

ま山乃まごともる人のき目ご

秀延

初つらとふ海とまの目わら

素恋乃猶やこ海りこきさうさ

梅盛

まーらららららららららら

沢田氏

休也

わらうらわらうららららららら

とそびやくとあつらららららら

三尻

し急なうららららららららら

花乃酒よりたるとぬより男もれ 高梨氏 野也

花乃酒よりたるとぬより男もれ 高梨氏

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 依曾氏 徳盛

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 依曾氏

花よふ心ひさかたはまはせしつる 依曾氏 酒母

花よふ心ひさかたはまはせしつる 依曾氏

具是乃主人名解よびく 村上氏 生信

具是乃主人名解よびく 村上氏

心乃のえがよれがむし天正 内田氏 平吉

心乃のえがよれがむし天正 内田氏

一月二日かみりあつる山奉納 下村氏 正紀

一月二日かみりあつる山奉納 下村氏

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 佐木氏 道繁

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 佐木氏

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 栗木氏 忠栄

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 栗木氏

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 清水氏 正勝

花乃酒のそりおそ鼻乃わか 清水氏

物是乃其色くきつるの海重治

回位とくはよしうそそ道場浦

年りりまれるはげ操綱梅盛

結うくと舞うおろ舞意

物日中も新やわらふじ清多日

長波や又立出く糸のかり

版赤中も勢状そそふ毎午以尊

紫花もそらわやじとふ雲の縁

梅乃り恒中も繩乃性よ日

日付の巻六

一節二首よそしうみ道大和の

台野物能く花中も根中貞徳

山ちの兎乃るみよさそはれは

折や新ひ急ういりらほじ加列 正種

繩をさるはほいさふ正月

わく玉乃年うらゆら端うひよ諫佐真光寺 以尊

今日もやうららふ法の新種び

よ毎もそまへへとる尾乃舞司東水野氏 頼廣

里人の心もあうど宿うて

花ぞむじうしゆんりふあふせき 松浦氏 廣寧

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

中嶋氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 貞辰

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

原梨氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 一雪

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

伊藤氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 信徳

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

山守氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 守人

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

仇木氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 道繁

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 貞徳

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

野村氏

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 吉次

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ 梅盛

あうごふあふまふ山ゆんりふあふ

武義野乃朱磐昌のまきとく 沢田氏 休也

梅くくくくくくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 真徳

あまのあつらふくくくくくくく

けいしんくくくくくくくくくく 知泉

あまのあつらふくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 梅盛

あまのあつらふくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 日

あまのあつらふくくくくくくく 野村氏

あまのあつらふくくくくくくく 義直

あまのあつらふくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 山根氏 一信

あまのあつらふくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 一之

あまのあつらふくくくくくくく

あまのあつらふくくくくくくく 梅盛

あまのあつらふくくくくくくく

さうぶる花とらんゆくはる西条膳所教額寺善原

おがめひらりりんと佛さら掠梨氏一雪

ほとまよわのこころももとむく

年とていんせむじばにたぐり

のどろよろひのひ日かる新波し

雨ふりく候わらら風は金谷氏友光

地うらまりの蹴そあまはま

佛とあめとくふらふはるん

花も一念はひらりりとおあ梅盛

非松とくどなまらりなま

姥様とくこし色かむせり同

夜くまふ八まんを月陳田泉氏勝明

多あらし玉中ん年ノ男山

舞あふあふはらりりり藤井氏秀朝

鞠ひま月もまよふまのこ道

浦まよふはらりりり貞徳

大黒かとしじろふあ永る日

うらつさく縁とくあわらぬ

人の心は霞の如く
河

あつらひの如く
あつらひの如く

あつらひの如く
梅

あつらひの如く
あつらひの如く

あつらひの如く
あつらひの如く

口真似草第六

夏部

わもひの糸あま山糸
冬乃ちうあうまあま山糸

貞徳

つせいぬまうま山糸
何ちねりー一志るいゆけ

三長

夜海いまり船智の里人
まらうまあま山糸

堺真光寺
以尊

螢ゆらやみいゆられつらうま

まがりこゆいーいあめ藤原

月

白書はらるはらる中

日

卯の花やあまのよららわ

とひもくいよひの夜中

堺住視氏

一長

あらまらひいよららわ

夏乃あひまららわ

梅盛

のこぞ敷らららわ

月よみいよららわ

わが心はほむらうらんの家 藤井氏 秀朝

今日らうらわく教へそら 埴田原氏 勝明

まゝく長極細料短じて 松浦氏 廣寧

群乃そむぐさく河名 伊藤氏 信徳

うらふもじいひかぬまよふ 中嶋氏 貞晨

河名もつらうらうら 姫路苗氏 吉長

あかり茶うとくさぬ月夜のは 一勝

かんうう源一安か棚の本

わが心とひらくつふ扇菊

縁しんせしむらり

河名もつらうら 一勝

わが心とひらくつふ扇菊

ころもかむるうら 一勝

縁しんせしむらり

よとあつひひのそら 中嶋氏 貞晨

わが心とひらくつふ扇菊

あつひひのそら 一勝

わが心とひらくつふ扇菊

おひひくみすじ愛の火ぢりりそ 膳所本間
三成

うさおお平のうさそみぞく

ゆきふ六福ごり作かふ一平酒 梅盛

ふさふさもあふさふさふさふ

かひふい時分なをちふとふ本の戸

くらふとごりみよらく梅盛このあ

とふくよあひのうさふさふさ 沢田氏
休也

ぬきけく敷う多きれ梅盛

こや敷う梅盛のび 梅盛

六月の暑あつてふ梅盛 育水氏

いふい今おのおとゆり 勝好

さふりよは目よかんぬとやかく

あひふい時分風をゆー 高梨氏
野也

川あふいあふととととと

うさおおの雲とつとと張 梅盛

あひふいあふいあふい

とととあふいあふい汗 同

あふいあふいあふい

田子の浦は舟出みまじい海に宿まて 貞辰中嶋氏

かたはらいついしやうしよする神風

でい引のふり後みまじい扇あして 日

葎山あしのまゝの小枝こえだのまゝらあ

節せのくくり涼風すずかぜをうけ 信徳伊藤氏

揮う洒しやうとま帷かたびら子こかまへ

君きみ乃なおとくも十八はち去さ月つき 梅盛

ふりごとと敷ふらわまこは夜夜

蜂はちもも指さしとわけくつらまゝら 野也高梨氏

ほのぼのの仕しのまゝなまゝ

登のぼりりるらはととぬ月つきぬりりは 重治世木氏

突つ天てんよりより平ひらままののわん

夕ゆふままののひひででゆゆ飯いひ 正經下村氏

ささののひひののひひののひひののひひ

月つきののひひののひひののひひののひひ 梅盛

わわののひひののひひののひひののひひ

ささののひひののひひののひひののひひ 道繁佐々木氏

わわののひひののひひののひひののひひ

わさししる数束やふふゆらり
以尊 珠佳真元寺

此勢ぞゆつる串のおほひいよ

菱とくふあもつる夜くらんとうと
盤

不地付ふよしよもきまお

りし若きとえ束方とわ

とり松乃排云かる程

よもさるれくくと付句

二句よくとれとさるすと

祇園會 七日十曾

長刀鉾ト云 うさぎ 虫刀の柵もかんりよみくじ

かざりゆくくく後園まの并

函谷鉾ト云 はな んこの雲の雲乃若んゆいひ出

かざりゆくくく後園まの并

庭身鉾ト云 はな 庭身ゆみまは舞もさるや

かざりゆくくく後園まの并

月鉾ト云 はな うりくくく月や人目よかあらん

かざりゆくくく後園まの并

菊鉾ト云 はな 菊の雲あくくくや

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

放下^{ト云}

さゆ〜ゆる 教^{きやう}下の^{した}の^のあ^あは^はは^はらん

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

舟^{ふね}針^{はり}ト云

舟^{ふね}針^{はり}と云^と引^ひお^おらん^んと^と用^{よう}信^{しん}と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

右^{みぎ}の^の車^{くるま}も^も車^{くるま}と^と引^ひお^お

七^{しち}車^{くるま}の^の神^{かみ}と^と云^と

周^{しゅう}山^{さん}之^の名^な

橋^{はし}安^{やす}慶^{けい}山^{さん}ト云

ゆ〜ゆる〜ゆる 橋^{はし}安^{やす}慶^{けい}山^{さん}と云^と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

身^み戸^とト云

ゆ〜ゆる〜ゆる 天^{あま}の^の岩^{いわ}戸^との^の神^{かみ}と云^と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

鈴^{すず}麻^ま山^{さん}ト云

と^と入^いる^る鈴^{すず}麻^ま山^{さん}の^の名^なと云^と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

右^{みぎ}出^で山^{さん}ト云

ゆ〜ゆる〜ゆる 鈴^{すず}麻^ま山^{さん}の^の名^なと云^と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

天^{てん}神^{しん}山^{さん}ト云

天^{てん}神^{しん}の^の社^{やしろ}と云^と神^{かみ}の^の神^{かみ}と云^と

わざり〜ゆる〜ゆる 後^き置^{ざん}と云^との^と并^び

八幡山ト云 八幡のやしろの神のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

観音山ト云 観音のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

假行者山ト云 假行者のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

太子山ト云 太子のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

白樂天山ト云 白樂天のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

琴檜山ト云 琴檜のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

笋山ト云 笋のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

郭巨山ト云 郭巨のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

浄明山ト云 浄明のまゝとて

かざりしめくころの祇園さま乃山

山伏ト云山伏ヤの勢マカ力チカラはハくハとト響ヒえ

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハ祈

黒主ト云祈ヒ人ビ乃ハ其ノのハらハるハ祈

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

鯉ト云

龍ノ門ノ中ノにハ遊ビへト經ルやノのハげハん

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

花盗ト云

花ノ盗ノ人ノのハて

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

蟹ト云

蟹ノのハてハらハるハ車ノのハてハらハるハのハ山

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

芦荻ト云

芦ノ荻ノのハてハらハるハのハ山

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

木賊ト云

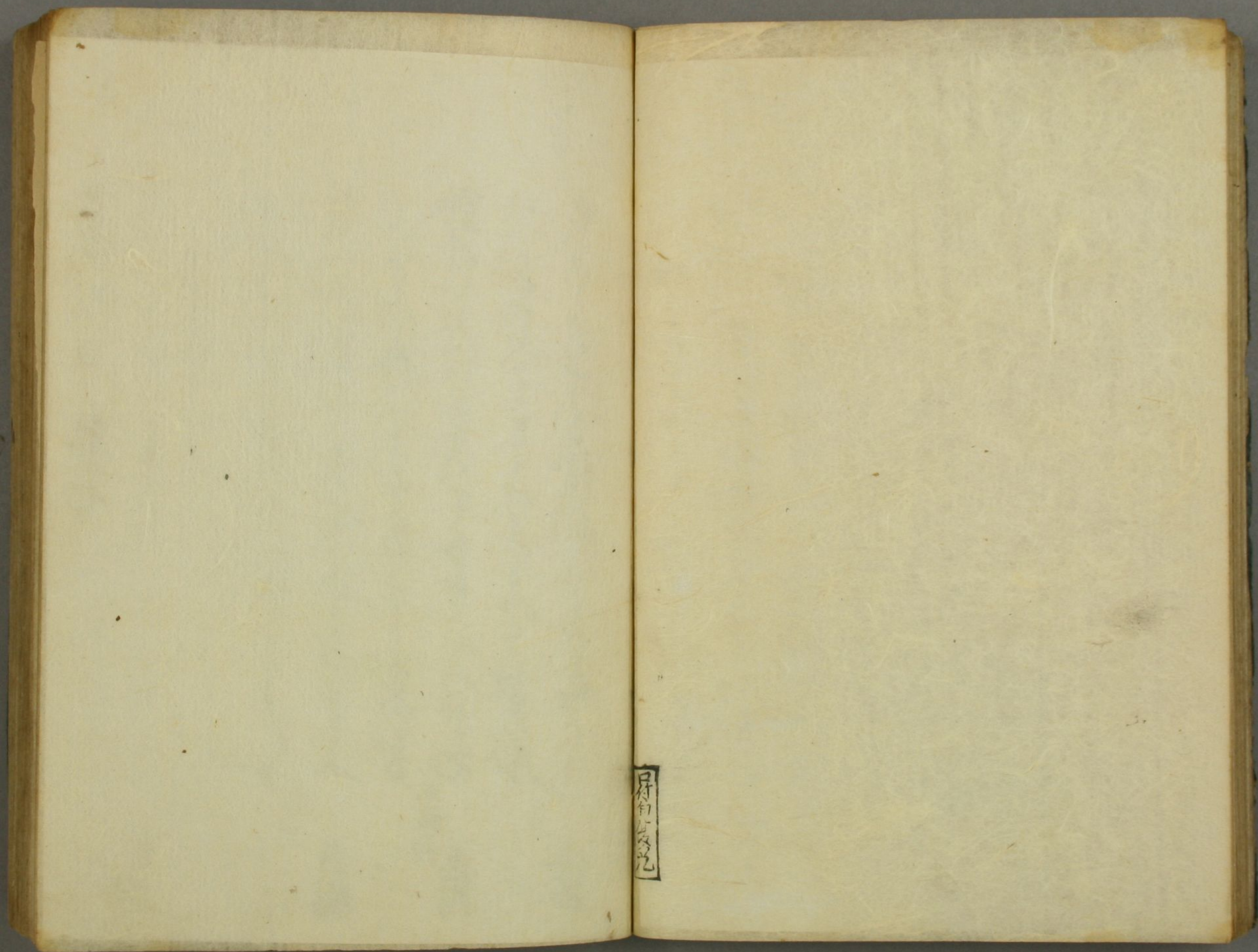
木ノ賊ノのハてハらハるハのハ山

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山

鷹ト云

鷹ノのハてハらハるハのハ山

かざりハめクくハるハ後ノ世ノまハりハのハ山



目錄

口真似草第七

秋部

秋風ぞくくぬはたりく

白河の雲（雲）はらりし

貞徳

とみ柳（柳）はらりし

川野氏

正圓

野のそびのまらりし

ぬきつらりし

雲のそびのまらりし

後盛

どろりし

雲のそびのまらりし

下村氏

正經

秋風のそびのまらりし

てれはく天のそびのまらりし

高梨氏

野也

浦のそびのまらりし

伊勢のそびのまらりし

藤井氏

秀朝

おさごむらりし

依田氏

酒文

うらぬきやがらりし

大風はらりし

とまじりの行なひはあつくしごと

梅盛

玉乃やうふ露はそく風はあて

秋乃木と念とらんごとんぐり目

日

くく響るりよまゆる松茸

露のうる山霧る虫もこのときそ

貞徳

物ぐわ乃夕まの初の舞りゆ

と極乃月をちりとみあは

梅盛

やさういよあゆみと菊の香

山霧の霧よわら雁乃中傷

貞徳

秋とあゆいあぐ夜とと梅と

かりは乃の唐かんと雨りあ人

日

野拾びと又お祭かんも一交と

虫もらんちあ林間か酒

梅盛

針の先はさぐれとあもさうど

麻の角をや蛇かるとわあ

日

いほつもおさう一肉のわく

さぶやく宿残さうつげの秋の積

日

西く伊勢お格らうと

雞波の聲もきこゆる萩のよと 日

秋中も夕陽や四寸八枚

かろくともやし八月の秋あそび 棟真光寺 以專

菊花もいさるいさるの山行橋よ

大らんやとや名をきく萩の 日

ゆきびとあつたやする秋れれ

霧のふるはは美神のまんじりほを 中嶋氏 身晨

糸とびとづるふやうかろん

いづあきのうらうら名物あつめとこ 梅盛

かむとららぬら藤れきのあ

かみめて心湯ぞとすう神子の神 大塚住 守閑

とがくとほの月の秋あらし

霧箱もも目ととりぬあたる鳥 伊藤氏 信徳

貴枯もくさうぬあいの橋ぞら

君よあめ秋の秋くさうとや 日

吹秋風も心をとくもさ 鍛

夕暮よほとくと折糸川 堺住 常須

とゆうりもさあめとみとる湯余

粟粒をねりてひろのり霧が曇り
日

ふゆふゆの自づからあめけ
内海氏 安重

木のこぼるるの月の影法師
村正氏 生信

吹く風も吹く
生信

虫のこぼるる霧のちりちり
梅盛

歌り霧もゆきとど
梅盛

ゆきんぞよ麻のちりちり
梅盛

わづらひのりかきよや
梅盛

やうらひのりかきよや
梅盛

かきよのりかきよ
廣寧

梓のちりちりのつらや
廣寧

傳出みまづら
廣寧

清き月もつら
正全

まづれはくわのま
正全

木のこぼるる松茸がら
信徳

神のこぼるる
信徳

極ゆる尾もや根づ
貞晨

ゆらゆら
貞晨

無^ん常^{じょう}いの^いの^のを^を我^がの^の月^{げつ}の^のる^る海^{うみ}傍^{ばう}に^に 吉直氏 以^も三^{さん}

吾^わ人の^の船^{ふね}よ^よの^のり^りて^てや^やう^うう^うか^からん

る^るま^まや^やて^てし^しと^とる^るる^るる^るの^のと^とり^り火^ひ 貞徳

や^やと^とし^して^てお^おか^かる^るに^に正^{せい}又^{また}九^く月^{げつ}の^のと

秋^{あき}の^のり^りし^しよ^よの^の葉^はら^らら^らく^く 秋^{あき} 日^ひ

み^みよ^よ葉^は乃^のの^のい^いひ^ひの^のい^いづ^づと^と山^{さん}

ま^まん^ん丸^{まる}な^なら^らづ^づ秋^{あき}さ^さる^る月^{げつ}も^もあ^あ 棟真光寺 以尊

あ^あら^らい^いあ^あか^かく^くあ^あら^らい^いづ^づ人^{ひと}を^をら

月^{げつ}も^もあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 常順

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 秀延

月^{げつ}も^もあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 秀延

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 野也

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 野也

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 平吉

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 平吉

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 正村

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 正村

あ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^とあ^あら^らい^いづ^づと^と 正村

菊の花や田作わらうよにやとらん 川野氏 正圓

ふゆのよすがうらり野とてうらみ道

棟三老氏

嘉雅

席の毛でゆきぐさの年よ念ひこそ

鶴かゝる羽の長るはくりにと

棟真光寺

以尊

大月やあましく落よあまねん

あまのうらりくへ嵐の心

男さうこあましく育の月 梅盛

かゝ道うらみあましくゆり紙

江戸赤壇氏

一庵子

尾花はらりうらりとゆらりこころ

口美四草ノ第八

冬部

と若お海一のまきいめらしく

あどらりびるひの尾根も雪科

とらんともびるこまきさるあ

はんざらと時ぬよもよめれくら

こ海りともひくちきさるざ

冬らもふる敷酒給解く

貞徳

世下氏

重治

川野氏

正月

たんごとのまらわおまの糸の中

たみごころ〜まの作のぬまら

あさりゆらりまぬらさあを風

はく袖つらそづらほぐもつあそ

月宛ふただきさゆせらん

尺八をとらま〜と白の吹竹

お用ハあふらふ小野のおく

炭の火乃おらりさあわらぬよ

いそのごころぬらんをすま

貞徳

梅盛

日

貞徳

鸞の鳴らるるはたよるくつよ書
兼載

さうそれらりしげとあんどる
中嶋氏 貞晨

林をせらるる風のそら鳴るるは
高梨氏 野也

さうくうさせよ林をのりは
藤井氏 秀朝

びんがくの神を月をさうもつれ
沢田氏 休也

おろろろあつあつ時分あつあつ
吹周はるまじく陰のうらみ月
以專

おひめく可ぬへりどの心
嶌真光寺

人まのぞらさひさうんもつれ
嶌田原氏 勝明

ゆよ酒のそりふららめき
伊藤氏 信徳

秘と布と引おろつたれて
高梨氏 野也

かぎんとせんよまろ納をけ
野也

さうさうさうさうさうさう
野也

の秘ら針ゆどぬをりて紙子
野也

かひらりと若もよひはれし
野也

楠きぬもるもいとあををよそとら
貞徳

わがはぶの口よはくはうさうえん

わづらふとよとそとそくふ妙たぎのあ
梅盛

山里やまの冬ふゆそとさむもゆさうけら

人目ひとめもくくろくわらふ戸と後ご子こ
貞晨

いぬまのりーあははるるるれん

せんせんがとも秋あきれららばめく
村上氏 生信

しうびとせあうりそとつとあ

あうらふは際ぎはあうらるるむあうと
目

おの国くにのいふはさうらゆきん

かう屋やととといはくさあうら
連水氏 忠景

根ねもあつしあをの志こころあ

久ひさあひさうひのこわあうら
観音寺 知泉

一ひとこころぬあのみら屋や

田た子の梅うめ物ものくみさうら
梅盛

年としもさるやまを神かみさの河が分ぶん柄がら

火ひさるすわがうかよわかた
寂光寺 泰円

ゆくせんらう一人ひとり志こころあうら

育こくよよかかががひひ物もののの名な季きぞぞろ

貞徳

漆しおおじじ麻あ子このの秋あ物ものしして

新しんととああせせるるふふゆゆららるる名なのの品しん一い塵ちん

成な品しん非ひ埴ぢ

口真似草 第九

悪部

とんぐりたるまじり神にまがり

ゆづり剛毅入力ををるげら死

貞徳

うらむねのむねむじりさたれん

えともよるみごかみ海乃祝乃

梅盛

かゝる花もまじりしうらむ

あゝ悪いふ引の石のこはらひ

日

あつら糸の中とみごらりそえらば

まげくもさむいひもやあたま

日

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

伊藤氏 信徳

あゝの丸をへたのぶら

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

膳具住 未宜

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

梅盛

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

七ツのあふあふもららひらりて 村上氏 生信

石よりあふくくくくくく 種沢氏 貞重

山系うとのあざりあふんと 村上氏 生信

毎日ぬのじりみ 村上氏 生信

あふくくくくくくく 村上氏 生信

あふくくくくくく 村上氏 生信

ふめ入のあふくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

あふくくくくく 金谷氏 友光

鼻のさたはわらわらもさる
ねはしめくこりま摘りま
後盛

同素はどかふるまけし後れ
姫路着苗氏
吉長

蛤のくさる神志のびり
郡山
常空

ねまうやまがむじりい後不
中嶋氏
貞晨

風ふびもひきくまむらなく
一雪

そゆりともけくくの悪衣
常須

よらうの魔されまわさけぬん
常須

ふくせのまむすび

はりるこちりりあまら曲るや
梅梨氏
一雪

思ふはあははこぼるや
陳住
常須

うみしづもあまのくくや悪衣
内海氏
女重

いとあまの年たうらあまむ
常須

とくかよまらわらぬとら
常須

祢まらひらひらわの独寐
常須

まはまのむすのあしやれ後子
常須

まらや袖の洞のまら
常須

足家の御まら胸やる信
依木氏
道繁

わさかきくくくくくくく

村上氏

あまのこころたうわかく移の門

生信

一筋とねりゆら

いへくさみよとらうい

日

かきこころくくくくく

中今くくくくくくくくく

日

おまらぬくくくくく

ゆきあはむくくくくく

盤

おまらぬくくくくく

あまのこころのうまをとりぬ

伊藤氏

信徳

やそくくくくくく

うへりわびくくくくく

高梨氏

野也

後をくくくくく

ひかいらくくくくく

兼載

いのちのくくくくく

生るくくくくく

日

あまのこころくくくくく

あまのこころくくくくく

友井氏

秀朝

勢わたりいりおんれあまら

和列金谷氏

くもあつていおなうりすまを

正盛

らひのりあつてあつてあつて

陳視氏

らひのりあつてあつてあつて

一夫

らひのりあつてあつてあつて

日

魚つらあつてあつてあつて

わつらあつてあつてあつて

貞徳

りあつてあつてあつてあつて

梅盛

くわあつてあつてあつてあつて

おぼこの上書とごとくあつて

大治 守閑

とくひんねうさおちる

るめりはまのちの中もあつて

棟梨氏 一雪

髪乃あつてあつてあつてあつて

書玉はさりあつてあつてあつて

金谷氏 友光

はたこのあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

梅盛

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

日

ねんねのむかしわのじいれが道で

ふゆいゆゆせんらん口もはせん 日

塔トウのうらまゝんじよまじり

みだ基石乃うまじくやふる 一武

ひんそけいじよまじり

君こそは程乃わのわいぬらん 嘉雅

さうようくよから行ぬる恋をよ

わらじいせまひ神本中ん釘 貞徳

そのほくと引ぬるやぬる恋ん

美からさうん餅もろくすどろま 日

るげりうらうら恋乃玉臺

相撲とるうらうそ美よまひら 日

とまこれら恋のじよまじり

悪用のまじりあくけいさあ 野也

これらあの中まひすてごり

いよ海よいごまあはらぬのぐらま 日

伊勢の海乃うらまはれけら

美いふごまじりあくけいさあ 廣寧

松浦氏

塚三忠氏

棟磯氏

高梨氏

さうくはなをよめむとらふらむら
りけりけりきりなをくぐりて 一六
延貞

みともくみあくるちるこいし
貞徳

物縁の縁中ふまへおごるを
貞盛

うらわこのあはれを秘ひせ
貞徳

後えりくくたふみらのもの
梅盛

舟のせそをひらひら
貞徳

けそ海もまがまのひらけり
貞徳

あがま戸乃あわらうま
貞徳

上篇を十二十三十四を

おろとやいとのおはりの内
貞徳

うらむの箱かひとらり

かへ勝乃まらよまぬわらう
休也

みりかさうらうまをいそ
清水氏 正勝

めをとよなるまらうま
清水氏 正勝

くるくまらうま雨はくは
貞徳

君とまれ教珠くまらうま
貞徳 秀延

あるまらぬ人乃まらうま
貞徳

わはしてあまもひごよの紙守

後子乃内うしろごのうもつあこらひ

斎名

磨ニホミけとさるる文代おさすま

善状ぜんじょういなりひそめ侍ざむらいかみ紳

内良氏 平吉

あへだうさこら乃乃ののと夕ゆふ念ねん

あまごもわか治りけりとせ常とこ養やうあかん

日

仕合しあはせ乃のうさこ悪あくやせかみ里さと

たまらぬもろ飯いひれらにいごごみして

日

ゆとんは秘ひする悪あくのきりどや

胸むねの尖いばりどくろえらりころの尖

梅田氏 正勝

悪あくゆはよあわすいせせのびて

君きみとあひあのあ基もとをうらまけりあ

梅盛

弁べんとけぬ君きみが自らみづかりあ

おどやまししのへいい海うみうころととる

日

あがううちまじい髪かみいいるるうう

おしご海うみのやじいいいれれももるる飯い本ほんと

依田氏 酒彦

ゆびははたたののががそそととそそやや悪あく心

いいららひひととししももくくとといいみみるるり

沢田氏 休也

あつたての歌をよみたるの節あり
日

悲のふよとていふも死とていふも
日

よめりたるやめりたるのり物
日

此のよとていふも曲あり
貞徳

るげらとていふも君が木枕
貞徳

うらむつとていふもそらもつ
梅盛

へおゆる持てはゆくも思ふ
梅盛

あごもいふもいれもも
梅盛

産ぶ乃也と志のぞれもせと
吉次

あつたての歌をよみたるの節あり
正經

のらりとのそや推ふ所あり
下村氏

あつたての歌をよみたるの節あり
休也

あつたての歌をよみたるの節あり
休也

あつたての歌をよみたるの節あり
梅盛

あつたての歌をよみたるの節あり
梅盛

あつたての歌をよみたるの節あり
日

あつたての歌をよみたるの節あり
日

ついでにそふ殿ハ行年ゆきとし

のさちり乃斷つぎ切ハせんかふ武田曰く非也一塵子

うみくくハ所はれお

好もく形かたち乃の鏡かがみ乃らむけ

源氏乃るり移ハ所け之書

くまられ移ちよ何なに之精進しやうじん

と身み乃れはたき者もの乃はせむん

武田曰く非也

同

同

同

口真山家第百十

雜部

ちるまはのまへく山嶽のま

河内とやまのらん音乃湧水

堺真光寺

以尊

日本乃神志心かほよこよ

庭づきやとん唐紙のゆのせんじ

貞徳

のらこくおがさげ大和寺

石うとり言わたる飯の寺乃内

同

海うらみ松あるや又母乃志

あさ山難波津のまよとらまひ

梅盛

あつし道しむらまのめかんむ

まの夜や修名乃松と美歌一

同

かろくく窓よおゆあま雲

物うてうもはるゆの後のる

同

まのりもむらまのめかんむ

登まらまのまかんとまの樹を

貞徳

共法成つるひかかまゆせん

高梨氏の野也

あまのついでに

梅盛

あまのついでに

伊藤氏の信徳

あまのついでに

同

あまのついでに

川口氏の保成

あまのついでに

種沢氏の貞重

あまのついでに

課住の常順

あまのついでに

同

あまのついでに

木林氏の信就

あまのついでに

本枕の中より巻子の出たり 同

次巻くよのいひあてし

桑のあらとらちかかたの巻物 聞説

年やふりあつる巻物文の道

けし枝とほえりふよのうりて 安重

わつこふあつる巻物の巻物強て

秘するその巻も目をや巻具 道繁

とらこよよの巻物巻物書し

天下の巻りしはくふ武目 同

連歌節のふり月もせむしり 同

祢事はしむる巻物野の巻

大原やをしはくし巻物す 同

まゆはし死わらあまれさ

おどりの巻物はくしあまれさ 同

あひさあ巻物文もよの巻物

わつこもがうり巻物いりて 正貫

のうり目もあまれあまれ

龍虎くつ巻物乃屏風を巻て 交光

金谷氏

わらわのこころをいかにしむるべし

梅盛

わらわのこころをいかにしむるべし

椋梨氏

一雪

わらわのこころをいかにしむるべし

大坂住

之春

わらわのこころをいかにしむるべし

佐々木氏

道繁

わらわのこころをいかにしむるべし

わらわのこころをいかにしむるべし

同

わらわのこころをいかにしむるべし

わらわのこころをいかにしむるべし

同

わらわのこころをいかにしむるべし

金谷氏

夜光

わらわのこころをいかにしむるべし

寂光寺

恭圓

わらわのこころをいかにしむるべし

わらわのこころをいかにしむるべし

同

甲八八そりらとつるやら
るがた強虎のちうひと種^{チウキン}すじ
以^{塚真光寺}尊

版^{ハツ}人ねるはみるぞつり

あひてるや序^シ墨山乃海^{ウミ}りげ
目

糸乃^{イト}まの浦^{ウラ}の屋^ヤ形^{カタ}れたた

そんと紋^{イテ}り^リ体^{タテ}る毎^{ツネ}まく
目

あつむつ^{アツムツ}のちの事^{コト}はは

まま乃^{ママノ}中^{ナカ}やま^{ヤマ}くお^オらん
目

あおそあ^{アオソア}く^クあ^アお^オのま

まてあ^{マテア}らん^{ラン}は^ハあ^アせん^{セン}虎^コ中^{ナカ}の^ノあ^ア
頼^{頼水野氏}廣

折^{オリ}はきを^キあ^アく^クあ^アく^クやく

屏^{ヒラ}向^{ムカ}の^ノ書^{カキ}一^{イツ}ふ^フや^ヤ無^ム筆^{ヒツ}
正^{正路吉田氏}俊

け^ケ松^{マツ}た^タり^リ一^{イツ}体^{タテ}る^ルあ^ア原^{ハラ}

あ^アつ^ツけ^ケと^トら^ラあ^アび^ビく^クる^ル巻^{マキ}れ^レ本^{ホン}
大^{大坂里村氏}坂^坂里^里村^村氏^氏
五^五流^流

あ^アつ^ツし^シの^ノあ^アつ^ツし^シの^ノあ^アつ^ツし^シ

あ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツ
塚^{塚之如}之^之如^如
こ^こま^まん

う^ウつ^ツあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツ

あ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツの^ノあ^アつ^ツ
同

若瓜すいかはゆとてふゆとてん
抜ひ種たねよりやじつとんの上
加列
正種

らんくことさゆいせめわいかん
らん月おりのはりよとる種
月

らんひ舞わらぬおつこ
わららるゝ乳酒ちちの真まいかりとる
種

種たね乃なとるよとりのひとるゆき
くらあことゆわおそひんくの種
加列
正種

望もち屋や成なりゆひあつあゆのそこ
月

ゆねわとらんよとておん

浦うら傳でんを即すなはちあゆとる
傳佳
常須

露つゆとほろんいのらわがほし

あつとゆとて人のとらとる
月

鬼おに一口くちもりのとるゆと

種たねの外がわわらう腹はらやらゆいはめ
月

菊きくのやとゆとるよとるよとる

らわらゆとるよとるよとる
一勝

あつよのころとるあつゆのあつ

三階と二階の差の意わけ毎 以里氏 休也

大和島のありはるどり意

とら入ま物のもつ野のありよ 大飯住 納元

とら入ま物のもつ野のありよ

人の物もつていりあすもつて 兼載

人の物もつていりあすもつて

七十一ニとくといんせのゆる神 梅盛

七十一ニとくといんせのゆる神

人の物もつていりあすもつて 日

あつねひろくは舞の原

とつねは一推ぐもつて 秀延

とつねは一推ぐもつて

あつねはかりんごのよけ 依田氏 酒母

あつねはかりんごのよけ

あつねはかりんごのよけ 中嶋氏 貞晨

あつねはかりんごのよけ

あつねはかりんごのよけ 日

あつねはかりんごのよけ

ふじのむじねたもあふるか
信徳 伊藤氏

あつらふてたかきり版

ひいふてあつらふて
一氏 棟根氏

ふばそくもめらるあつ

斥糸のあつらふて
正全 膳部朝臣

ちぢくとのくはたは

ふじくいふての山か
何

屋らくらのくもすじ

知るさ由や如神もらん
貞徳 天守

ちつふの流も乾もり

ぬしの神を初結中
何

おうくもまるる麻の

酒り酔くちんぐまう
平吉 内田氏

地ぐみんぐも海て

ねとまぐも神も
貞辰 中嶋氏

うさだいもまう

まや書の巻も終も
守閑 太夜

魚をうらわる神

さげめの連歌乃ゆ句あなまび 大夜 之春

このころころよふもつしよら

人かたむかひあふらふせむせ 中嶋氏 貞晨

後のむかひ一筋よのひん

らふらふ移んらふらふ 麻 日

法のよめあふらふ 東住観氏

らふらふ 一

本あふらふ 日

人ころころ移のころころ

か神の海りのおをくし 膳取朝世 正全

歌のころころ 椋梨

一 雪

今ころころ 膳所朝世

正次

膳取朝世

正勝

梅盛

梅盛

よりの力の程をあらはせ

あつたーかともとにさう易 同

あつたふとよふはあまき位と

下屋敷あつと 弁かんと 野也

よづらこのいもあつたひらくち

あつたふそのじつあつた武蔵 梅盛

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 同

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 貞徳

あつたあつたあつたあつたあつた 同

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 同

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 吉田氏

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 以三

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 梅盛

百づら残のわくくうらあるまら
何

身ゆらるるまらうり

顔鏡のむくとうくも傳交して
以尊

とり一火のさるる

瓶らん今屏つらうんるも山
貞徳

こつらうらひも

る目し雪鏡まくとおと存中津
一雪

とららうらうの二篇

はあつぐもらうらう残る百姓
秀朝

おはちあうらめら書せぞう

おさるんぐらうりしのゆじまの物
極盛

ふんあむじとも唯此

人多く入らうらるる兵庫
以尊

はくよはらひ物あわとこ

わじらわらうらるる物
貞徳

あうらうらうら

連袂よの波のサうらうら
極盛

銀香のわで

おはちあうらめら書せぞう

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

累禁にありていん城一やうい

びくわのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

軍よのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

軍よのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

軍よのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

軍よのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

軍よのいん城一やうい 同

軍よのいん城一やうい

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

はぐりし一目火も悪せき来 同

はぐりし一目火も悪せき来

人の心とあはれいせつらり乃翁

中嶋氏

貞晨

ゆのふ町特奇傳忠心状

神とていこころの實とて海とて

内里

平吉

人のあはれとて海とてあはれとて

りらうとていこころの實とて海とて

を神とていこころの實とて海とて

日

志はまはれとて海とてあはれとて

中嶋氏

貞晨

神とていこころの實とて海とて

ひのりらうとていこころの實とて海とて

物とていこころの實とて海とて

梅盛

ひのりらうとていこころの實とて海とて

まはれとていこころの實とて海とて

日

里とていこころの實とて海とて

沢田氏

休也

葉とていこころの實とて海とて

梓丸とていこころの實とて海とて

内田氏

平吉

ひのりらうとていこころの實とて海とて

やとていこころの實とて海とて

伊藤氏

信徳

ていこころの實とて海とて

うか釘のうかし作釘のうか

柳系とるかどかきふひくつ

佐木氏

道繁

下細とあつとあつとせられ

貴人中心あへ足袋いあふだ

村上氏

生信

わろつととそらふおの裏のまづ

内

せんきととらわびはかる道

かよとそで血中のはくんはらりよ

梅盛

みくもかたの命とのむりて

おきとあびゆたかのみとのや

羽加氏

正賢

みざれいんやんかあぬらん

あう澄くつふとりよあふと

梅盛

塩ぐりの糸気はみらあふ

室らと糸中門はり雲

内

版のうしろの版とまふと

せふり中糸らうとくはれ

貞徳

あぐい岩のこらりらあ

雞物若物らひのまわらん

梅盛

市人ら目と目あふとかん

わの心はほのあつらふらふとて
秀朝

ころころと移り目あるは
秀朝

灯のほそくはゆかたの
秀朝

おぐくしとて冬三十三日
重利

足引の山名を知りて
重利

えん朝とて海の色とてつり
梅盛

十二時をともする
梅盛

一わしとてぬかたわらふ
秀延

あつらひのえつらふとて
秀延

とてとてとてとてとてとて
住世

えん朝とてとてとてとて
住世

えん朝とてとてとてとて
延貞

えん朝とてとてとてとて
延貞

えん朝とてとてとてとて
正澤

えん朝とてとてとてとて
正澤

えん朝とてとてとてとて
休也

えん朝とてとてとてとて
休也

えん朝とてとてとてとて
休也

ちんちんのもんまのけふかあかん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 書 林氏

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん 日

書數句而呈示凡句佳者
新者盡撰次成章某人相
識者未識者共不言報錢
蓋不利其利養其志吁嗟
學之者于花于月念茲在
茲書成使予贅言於其尾
遂不得擲掄略記其姓名
時日云

明曆二稔應鐘中浣

高梨氏丈菴野也謹跋

明曆貳年

丙申

十月廿日

洛陽三條寺町誓願寺前

安田十兵衛閣板

